時の話題

がんの話題（4）

ーがんを意識する？ー

医療法人　幸良会　シーピーシークリニック　武　元　良　整

がんの話題は日常的になってきました。ニュースでも隣近所の話題でもよく、出てきます。我々は健康な社会生活をおくっている時から、がんを意識させられているように思えます。意識を高めるために、具体的には皆さんは何をされますか？　がん検診をうける事がベストでしょうか？　今回は「がんを意識する」、「がん検診」、そして「こころの問題」などの各方面からの文献を紹介します。

がんを意識する？

「がんを予防する・・カ条」はがんを意識する具体的な行動指針の一つであることは前回、5月号に紹介致しました。今回はがんの考え方や治療法に対する文化的背景の違いに焦点をあてた論文です（文献１）。右欄にその内容を紹介します。

がん検診を受ける（図１）？

がん「早期発見」に有用として注目を浴びているPET検診（フルオロデオキシグルコースを造影剤として用いる陽電子放射診断撮影）の有効性評価が 2006年米国がん学会総会（ASCO）で報告されました（文献２）。 浜松PET検診センター院長西澤貞彦氏らの前向き研究です（静岡県浜松市）。次ページに抄録を紹介します。その有用性に期待が高まってきています。真の評価はこれから明らかにされるでしょう。

タイトル：オーストラリア先住民と非先住民におけるがん診断・治療そして生存率のコホート研究

抄　　録：オーストラリア先住民は一般的なオーストラリア人と比較して、健康水準が低い事が知られている。
しかし、この違いを証明する比較データはまだない。
今回はクイーンズランドに居住するオーストラリア先住民と非先住民におけるがんの診断・治療・生存率を比較した。

方　　法：がん登録データから先住民と一般的なオーストラリア人を抽出し、解析には多変量モデルを使用した。

結　　果：先住民815名と一般的なオーストラリア人810名のがん症例をもとに比較した。診断時のがんの病期は２群間で有意差を認めた。糖尿病や慢性腎不全などの合併症がオーストラリア先住民により高率であった。
先住民群ではがん治療を受けていない率が高く、外科手術を待つ期間も長かった。診断時の病期、治療法そして合併症の有無を補正しても、オーストラリア先住民の生存期間は短い。

結　　論：この成績を理解するにはがんに対する根本的な文化の違いを認識し、補正する必要があるかもしれない。がん等への啓発活動をすることで先住民に対するがんの生存率が改善する可能性がある。

抄　　録：35歳以上の健康な職員1197名（平均年齢47歳）に対して2003年から1年毎の検診を5年間計画した。
検査項目はPET、CT、便潜血そして血液検査では腫瘍マーカー(CEA, CA19-9, SCC, PSA, CA125)。
今回は2年間の結果報告。

結　　果：図1のように、2年間で19名のがんを発見(1.58%)。
初年度に15例。次年度1名。3名は検診で陰性だが、1年観察後に胃リンパ腫・胃がん・腎リンパ腫を発病。
最初の16名中10例は初期がん(62.5%)。
初年度の15例におけるそのPET陽性例は10名。
2年目にPET陽性者はなし。
PET陽性者は計91名でがんを証明出来たのは10例。
11%の陽性率。つまり、81例は偽陽性。
次にPET陰性であった1106名中、1097例はその他の検査でもがんを認めず、99.2%の陰性率。

結　　論：初期がんが62.5%。
したがって、がん早期診断にPETは有用。
偽陽性が多いので、PET以外の検査も組み合わせる必要性がある。

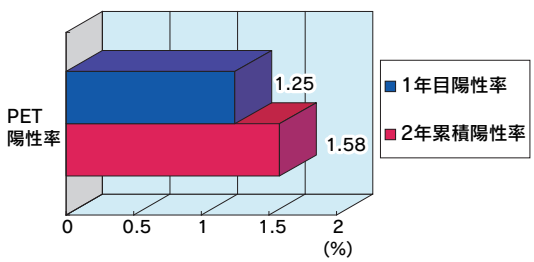

図1.労働者の1.58%にがん発見

がんと「こころ」の問題（図2）？

がんを知れば「怖くないか？」というとそうではありません。しかし、もっと知ることでその恐怖を減らす事ができます。さらに、心理的な対応(介入)があれば生存率が改善したという報告もあります（文献3）。図2に心理的ケア介入後の死亡までの生存期間(赤色)を示します。転移性乳がんの86名に対して50例は毎週の心理的ケアを行い、36例はそれを行わなかった2群間で比較しました。心理的ケア介入を施した方の平均生存期間は36.6カ月、介入のない群では平均18.9カ月でした。介入から20カ月経過した時点から生存率に差が見られるようです。

以上、がんを国民が「意識する」ようになるには啓発活動の継続により、個人レベルの意識が高まることが必要です。

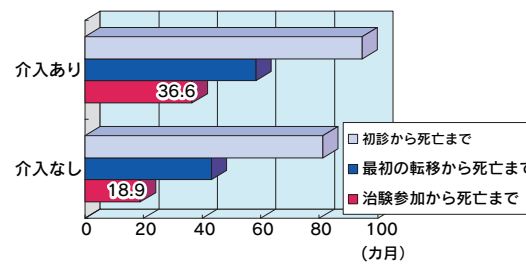

図2.介入後の2群間生存月数

文献

1 .Valery CP et al. Cancer diagnosis, treatment, and survival in indigenous and non- indigenous Australians: a matched cohort study. Lancet 2006; 367: 1842-1848.
2 .Nishizawa S et al. Cancer screening trial to evaluate the efficacy of FDG-PET in healthy subjects: 2-year results of the Hamamatsu Medical Imaging Center study Journal of Clinical Oncology, 2006 ASCO Annual Meeting Proceedings Part I. Vol. 24, No. 18S (June 20 Supplement), 2006: #1025
3 .Spiegel D et al. Effect of psychosocial treatment on survival of patients with metastatic breast cancer. Lancet 1989; 8668: 888-891